

「JANESYS2024 大学生訪韓団に参加して」

宮島清河

私は 2025 年 3 月 9 日～3 月 15 日に外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「JANESYS（ジェネシス）2024」大学生訪韓団の一員として韓国を訪問しました。以前より韓国ドラマを見ることなどで韓国に大変興味があった私は、昨年の秋に長野大学のポータルサイトに掲載されていた募集要項を見て応募を決めました。全応募者（479 名）から第一次選考（1500 字程度の韓国に関する記述文の提出）と第二次選考（面接試験）の通過を経て、86 名の大学生の 1 人として訪韓することができました。（団員数は引率の先生方等を含む 89 名）

日韓文化交流基金（日本）と国立国際教育院（韓国）が主催する本プログラムは「日韓交流と韓国の現状理解」をテーマとしており、全国から集まった大学生等が学校や企業の訪問、名所旧跡の視察、文化体験を通して、韓国の生活文化や歴史などについて学びます。その学びは SNS によって積極的に情報発信を行うことがミッションとして求められていました。

6 泊 7 日のプログラムでは戦争記念館や北朝鮮との近距離にある烏頭山（オドゥサン）統一展望台を見学し、朝鮮戦争への理解を深めるとともに北緯 38 度線を境に分断され今もなお休戦状態にある朝鮮半島の現実を痛感しました。また、韓国時代劇やドラマ等の撮影に使用されることの多い景福宮（キョンボックン）や慶基殿（キョンギジョン）も訪れ、王宮のつくりや建物の歴史を学びました。韓服体験では、韓国の伝統的な衣装の特徴を知り、朝鮮王朝時代を生きた人々の思いに触れることができました。私は、韓国時代劇でよく見られる世子様の服を試着しました。他にも現代モータースタジオやソウル市庁舎の視察、K-POP 体験、韓紙工芸体験なども行いました。

プログラムの中でも特に印象深かったのは 2 つの韓国の大学（東国大学と釜山大学）を訪れた際に行われたキャンパスツアー及び日韓学生交流会です。高校生のときに参加予定だった豪州への海外研修がコロナ禍により中止になったこともあり、国際交流の場面が少なかった私にとって韓国の大学生と交流できたことはとても貴重な機会でした。日韓混合のグループメンバー間で互いに両国の魅力を紹介したり、食事やショッピングを共にしたりして親睦を深めることができました。交流した韓国の大学生とは現在も SNS で連絡を取り合っています。

現在、日々の報道やメディアでは、元徴用工訴訟問題をはじめとする日韓の歴史認識問題も度々話題となっており、日韓には外交上の課題も少なからず見受けられます。そのような状況を解決するためには、若い世代を中心に文化的交流をさらに活発化させ、お互いの国の魅力を継続的に発信し、相互に理解し合うことが大切だと思います。日韓国交正常化 60 周年という節目に訪韓して得られた学びを様々な場面で活かし、今後も日韓の友好関係構築につながる活動を積極的に行っていきたいです。